

教父研究会活動報告

(二〇〇九年二月～二〇一〇年九月)

愛と記憶

●同日、研究発表に先立ち、総会が開催された。

第一三〇回教父研究会

二〇〇九年二月一二日(土) 聖心女子大学

出村和彦氏「三九〇年代のアウグスティヌスにとつてのパウロ―『告白録』の骨格理解によせて―」

第一三三回教父研究会

二〇一〇年九月二五日(土) 聖心女子大学

安井 聖氏「なぜ悔い改めることによつてでは救われな
いのか―アタナシオスの『言の受肉』第七章の解釈―」

第一三一回教父研究会

二〇一〇年三月二六日(土) 聖心女子大学

中村秀樹氏「サン・ヴィクトール学派の神学をめぐる」

教父研究会役員

名誉会長 加藤信朗

会長 宮本久雄

運営委員 柴田 有・宮本久雄・水落健治・荒井洋一・

土橋茂樹・出村和彦

事務局 編集担当 田子多津子・袴田涉

会計担当 佐藤真基子

庶務担当 田内千里・長峯素眞生・袴田玲

第一三二回教父研究会

二〇一〇年六月二六日(土) 聖心女子大学

海老原晴香氏「背面からの聴従と神の暗黒―ニュツサのグレゴリオスによる著作読解からの考察―」

泉 雄生氏「アウグスティヌスの謙遜に基づく神認識について―『ヨハネ福音書講解説教』第二説教に見る高慢と謙遜の対立―」

阿部善彦氏「ハインリッヒ・ゾイゼの『自伝』における

事務局所在地

〒一九二一〇三九三

東京都八王子市東中野七四二一一

中央大学文学部 土橋研究室

『パトリスティカ』投稿規定

1. 本誌への投稿は、教父研究会での口頭発表を前提とする。発表を希望する会員は、原則として、発表前年の十一月末日までに事務局宛にメールにて申し込むこと。事務局のメールアドレスは、以下のとおり。

tsuchi@tamacc.chuo-u.ac.jp

2. 投稿原稿の締め切りは、発行年の三月末日とする（依頼原稿は必ずしもこの限りではない）。

3. 本誌は投稿原稿に限り、査読制を採用している。原稿の採否、及びその取り扱いは、提出原稿を審査のうえ、運営委員会が決定し、投稿申込者に通知する。

4. 原稿の字数は、一六、〇〇〇字以内（注を含む）

縦書き（欧文タイトルを付す）

編集後記

書籍の形態や出版にかかわる状況が大きく変化するなか、おかげさまで本誌第十四号を発行することができました。関係者の方々に御礼を申し上げます。

今号から、「論文」とは別に「研究ノート」という新たなカテゴリーを設け、主として若手の研究者の方々の論文を掲載することにいたしました。教父研究会と本誌が、古くからの会員はもとより若い方々にとりましても研究成果の発表と研鑽の場となることを願っています。

なお、諸般の事情により、これまでご協力いただいた新世社に替わり、あらたに教友社に出版をお引き受けいただくことになりました。新世社中山訓男氏の長年にわたる当研究会に対するご理解とご協力を深く感謝いたします。

（第十四号編集担当幹事 田子多津子）